

令和 7 年度第 1 回横浜環境活動賞審査委員会 会議録	
日 時	令和 7 年 10 月 2 日（木）10 時 00 分～12 時 00 分
開 催 場 所	市庁舎 18 階共用会議室 みなと 1
出 席 者	戸川孝則委員長、為崎緑委員、川村久美子委員、北村亘委員、鈴木智香子委員、石原信也委員
欠 席 者	金子久夫委員
開 催 形 態	公開（傍聴者 0 人）
議 題	1 今年度の応募状況 2 第 32 回横浜環境活動賞 受賞候補者の審査及び決定
決 定 事 項	第 32 回横浜環境活動賞 受賞候補者の決定
議 事	<p>事務局：令和 7 年度第 1 回横浜環境活動賞審査委員会を開会します。</p> <p>初めに、横浜環境活動賞審査委員会運営要綱第 4 条第 3 項の規定により、委員の半数以上の出席が得られていますので本日の委員会が成立していることを報告します。また、本委員会は横浜市の保有する情報の公開に関する条例第 31 条により公開となっています。また、運営要綱第 4 条 2 項により、委員長が議事を進めることとなっていますので、戸川委員長、お願いいたします。</p> <p>議事 1 今年度の応募状況</p> <p>戸川委員長：それでは、議事 1 「今年度の応募状況」について事務局から説明をお願いします。</p> <p>事務局：今年度の応募状況について説明いたします。募集期間は、夏休みやお盆休みの期間を避けるため、6 月 9 日から 7 月 31 日までとしました。その結果、応募は 21 件となり、昨年度より増加しました。各種広報ツールを活かした発信の効果もあったと考えております。</p> <p>続きまして、審査の流れについて説明いたします。委員の皆さまには、事前採点及び特別賞の候補者を選出いただき、事務局にて集計しました。まずは、「各部門選考」について、3 部門の応募者について意見交換を行い、その後、採点の変更をしたい場合は、採点表の修正と再提出をお願いします。事務局にて採点の再集計を行い、その結果を踏まえ、得点が 18 点以上の応募者を実践賞候補とします。次に、各部門の中で得点の高い応募者について意見交換をした上で、大賞候補を決定する流れになります。</p> <p>続いて「特別賞選考」です。意見交換した後に、生物多様性特別賞と審査委員会特別賞の二つの候補を決定します。具体的な審査の流れは資料のとおりです。</p> <p>議事 2 第 32 回横浜環境活動賞 受賞候補者の審査及び決定</p> <p>戸川委員長：それでは、審査に入ります。「市民の部」、「企業の部」、「児童・生徒・学生の部」の順で審査を行います。意見交換終了後、皆さんに再度、採点をしていただく流れです。</p>

	<p>まず、「市民の部」についてです。委員の皆様ご意見はありますか。</p> <p>為崎委員：「港南台ひばり住宅」と「セントワープ横濱」の活動が似ていると思います。自分たちの集合住宅の敷地内の環境を守るため、自分たちによる活動をしています。ひばり住宅の人たちも、みどりを切り口にして住民のコミュニティづくりをしています。セントワープでは、外部の専門家なども入ってプログラムの検討をし、パネル展や講座開催などにより、情報発信なども行われています。こうしたことなどを勘案しながらの評価が必要だと感じました。</p> <p>川村委員：私も全く同じ意見です。逆に、「港南台ひばり住宅」のほうを高く評価しました。作業者の延べ人数が800人以上で、量的にも一生懸命頑張っています。ただ、中低木の伐採という活動だけだと少し寂しい感じがするのですが、「セントワープ横濱」に関しても、木が1,300本以上というのでけっこう大がかりにやっているかと思いますが、もう一方で、地元の在来種を生かしているわけではないので、まあ、同じぐらいかなという感じがして、点数差があるのは少し違和感があると思います。</p> <p>北村委員：私は「港南台ひばり住宅」は実践賞に満たないかなと思いました。経費削減がアピールされており、環境のアピールが足りなかった印象があり、評価を低くしました。また、「セントワープ横濱」は実践賞があり得ると思いました。管理組合としては意識高くやっていますが、これが持続できるのかどうかを懸念しています。業者が入っており、団体の自主性という点からも実践賞になり得るか難しいところです。</p> <p>戸川委員長：私も北村委員と似たような意見です。「港南台ひばり住宅」と「セントワープ横濱」は、「環境」という言葉をどこまでとらえているのか、非常に悩ましかったです。後者について、生活環境までを入れると、かなり面白い取組だと思います。管理組合が住民を巻き込んで意識の醸成をするというのは、今まではなかなかなかった非常に面白い取組だと思います。他の応募者についてご意見はありますか。</p> <p>為崎委員：「花の里づくりの会」は、地道な活動で地域の神社仏閣や小学校との連携の中で活動しているところを評価しました。不安材料は継続性の部分です。今後運営費や会員増強などの課題をどうしていくのかまだはっきり見えていません。ですが、今までやってきたことについては評価できるため、私としては実践賞レベルの点数を付けました。</p> <p>川村委員：2004年から20年以上、花の苗を提供していることだけでも相当大変なことです。神社や小学校とつながりがあります。継承者の問題はありますが、活動自体の広がりを見ると、実践賞レベルであるのではないかと判断しました。</p> <p>鈴木委員：地元ですごく近いところです。花の寺は私たちもよく見に行きます。他の寺にこのように広がっているのは全然知りませんでした。私も実践賞の基準で評価しました。</p> <p>北村委員：私は長年環境活動賞を審査してきたので、今回は新しい視点に注目して</p>
--	---

	<p>審査していました。20 年やってきた活動自体は素晴らしいですが、その間に環境を取り巻く状況はすごく変わってきました。「美化活動」については、時代の流れの中でアップデートがうまくできていないと感じ、評価を落としています。「富岡並木公園愛護会」は、アップデートがうまくいっており、応募書類に色々なことを書いています。「市民科学」という言葉を使っており、これも最近の環境に対する取組の言葉です。長くやっている活動のように見えながら、環境に関する最新のアップデートができています。私は、全体評価として「富岡並木公園愛護会」を高く評価しています。その一方で、アップデートがあまり感じられない団体については、長く続けてきたことに対する評価と同時に、環境に関する事柄の移り変わりについては低く評価しています。「名瀬谷戸の会」は昨年引き続き応募してきました。昨年も実践賞をもらっていました。皆さんがどう評価するのか聞きたいです。</p> <p>川村委員：「名瀬谷戸の会」は、産官学連携に関して詳しく書かれていて、メダカの会をサポートしてきたり、中外製薬と自然共生サイトのサポート役をしたりして、ほかの団体との活動に関して詳しく書かれています。今後の産官学連携の裾野が広がっている可能性があります。応募書類等も前回から少し変わった印象を受けました。そこを評価しています。</p> <p>為崎委員：私は、「名瀬谷戸の会」「カマリヤン倶楽部」「富岡並木公園愛護会」の3者に高い点数を付けています。「名瀬谷戸の会」を評価したのは、非常に連携が多様でモデル的な点です。企業との連携もすごくたくさんしています。そういったところが他団体のモデルになるということで評価しました。「カマリヤン倶楽部」については、1 から始めて着実に発展させてきたプロセスを評価しました。本当に1 から始めて、色々な仲間を集めて活動を発展させ、地域のネットワークを広げています。継続とそこでの発展性というところを評価しています。</p> <p>川村委員：継続や継承が難しい、という話が幾つも出ている中で、「カマリヤン倶楽部」は一つのモデルになります。幼児から 80 歳まで幅広い年代の人がいます。20 年以上やりながら、情報も毎日更新し、非常にまめにやっています。他の団体は先細りになってしまう中で一つのモデルになります。ルールはゆるくしていますが、問題になることではないという実例を見せている点では非常に面白いと思いました。</p> <p>北村委員：「名瀬谷戸の会」や「カマリヤン倶楽部」は、すごく広範囲な活動で色々なことをしてきたところはすごく納得しています。私は「富岡並木公園愛護会」を評価しています。これまでやってきたことだけでなく、これからの意気込みがすごいからです。最後の「活動の成果」に、「短時間の成果を求めることは困難なので、まずは 10 年を目途にデータを蓄積する。そのために若手を育てるのだ」という文言がすごく良かったです。若手を育てるのにすごく力を入れています。過去の実績は同じぐらい強いと思いますが、どちらかというところこちらのほうを評価しました。「目指している」というところや、若い人たちが入ってきているということはアピールポイントになると思いました。</p>
--	--

戸川委員長：それ以外の応募者について、評価にあたって、気になった点などはないですか。

委員一同：ありません。

戸川委員長：続いて、「企業の部」についてです。委員の皆様ご意見はありますか。

為崎委員：「テクノジャパン」は中小企業なので大きなことはできませんが、通常の見積書と別に環境に配慮した見積書を提示して、取引先を巻き込んでいるところを評価しました。別に作るのは手間もかかるし、そちらが採用される可能性が低いことが分かりながら、それでもその手間暇をかけて取引先を巻き込んでいるところを評価しました。ただし、地域との連携が少し弱いというところは気になりました。「東洋電機」は、製品面における環境貢献が中心かなと思いました。これに加えて、一般的な取組みではありますが、リユースやリサイクルを徹底しているところを評価しました。両者とも実践賞に達する点で評価をしています。

北村委員： 中小企業で頑張っているのはそのとおりだと思いますが、「東洋電機」などは太陽光パネルとLEDがあります。全体的に最新の問題にアップデートできているかというのは、私の中でテーマとしており、点数に差を付けています。太陽光にしても、パネルの廃棄問題が考えられている中で、もう少し書けるところがあるのではと思いました。

川村委員：「東洋電機」に関しては、CO₂削減に取り組んで、温暖化対策賞を受賞しています。そのときのデータとして、太陽光発電システムを入れて 330 トンにしました。温暖化対策賞にプラスして、29 年に LED 化で約 40 トン下がっています。

「古川電池」は、横浜が本社であり、本業は非常に高く評価していると思います。鉛というリサイクル性が高いものを使い、蓄電池自体をリサイクルして、業界でも高く評価されています。それが横浜にあります。リチウムになっている時代ですが、そういった意味での本業を評価するというのもあって良いのではないかと思います。

戸川委員長：リチウムが本当に良いのか、どこまで考えるのかはまた議論になるかなと思います。

鈴木委員：「テクノジャパン」は清掃作業が中心で、「東洋電機」は太陽光とLEDが中心かなと思ったところがありました。「宮本土木」が同じような規模ですが、すごく地に足が着いた、説得力のある内容だと思いました。

為崎委員：「中外製薬」と「宮本土木」の取組は対象的であるように感じます。前者は大企業で、全社の中の最先端的な取組をするところが横浜にあります。持っている資源も豊富で、地域を巻き込んでやっています。先端的な取組を社内で共有しています。後者は中小企業で、横浜に根づいています。ボランティア的に地域貢献していて、中小企業ではとてもモデル的な取組をしています。事業所の人数が少ないのに、体制は非常にしっかり作っています。きちんと事務局もあり、監査の体制も整えています。

	<p>北村委員：私も、視点は為崎委員と全く一緒です。両方、あまりに対象的で、評価がしづらいです。「中外製薬」が、もうやるべきことを全てやってきた感じ です。大企業で、手を抜かずにやってきたところは評価せざるを得ません。「宮本土木」は、中小企業だからやれること、姿勢が一つひとつ伝わってきます。「100 パーセント再生可能エネルギーに切り替えた」というのは中小企業だからできるようなことをもう既にやり切っているところがあると思います。本当の勢いを感じます。取組は非常に素晴らしいですが、中小企業にできる限界値と大規業にできる限界値の差があると思います。</p> <p>戸川委員長：それ以外の応募者について、評価にあたって、気になった点などはないですか。</p> <p>委員一同：ありません。</p> <p>戸川委員長：続いて、「児童・生徒・学生の部」についてです。委員の皆様ご意見はありますか。</p> <p>為崎委員：「北方小学校」の SAF というテーマにはとても関心を持っています。ただし、6 年 1 組で応募しており、6 年になるまでは実績があるわけではなく、事前質問したところ、在校生に受け継がれていくこともなく、単年度で完結します。また、教員の視点がやや強く出ているので、生徒の視点での表現がもう少しあると良かったと思いました。</p> <p>北村委員：私も全く同じ視点で、18 点未満で付けています。おおむね 3 年という中で 5 年生からの活動でした。ここから活動が続かないと思ったときに、小学校自体ではなく 6 年 1 組を評価することはできないのではないかと思います。児童や小学生の場合、先生たちの関与がどの程度なのか気になります。「南希望が丘中学校」の手書きの文は生徒の関与がとても良く伝わってきました。「藤井さん」は発信力がすごかったと思います。発信することが環境活動だというふうに自身でもとらえているところは素晴らしいです。まだ自主性が読めない感じがどうしてもしますが、もう少し活動を見守りたいです。「新治小学校」はすごく面白い取組だと感じました。</p> <p>戸川委員長：「北方小学校」は、活動期間がおおむね 3 年以上かどうか が評価の軸にあるのですが、いかがですか。</p> <p>事務局：5 年生の頃にそれぞれクラスでやった取組が書かれています。児童・生徒・学生の部だと、3 年間というのはどうしても厳しいので、ここは少し寛容に見て、応募してもらいました。</p> <p>北村委員：総合の時間を使ったというのがもう一つ引っかかっています。総合の時間は小学校の課程に含まれています。その内容をどう生かしていくかは学校によりますが、「授業の一環」だとすると、その時間を利用した点をどう評価するかが難しいです。</p> <p>戸川委員長：ESD でやっているのですよね。ただ、「環境活動だ」と言って応募して</p>
--	---

	<p>いる中で、私たちが拒絶するのはどうかと思います。</p> <p>鈴木委員：学校の先生方はすごく疲弊していて、こういうものに応募するなど、余計なことをするのはすごく大変な時代です。1年ではあるけれども、これを評価して、そういう先生方を応援したい気持ちもありました。もしかしたら、ここで評価されたら、その学校が継続して SAF をやる気になってくれると良いです。</p> <p>川村委員：「南希望が丘中学校」は 2011 年に、同じくビオトープで横浜環境活動賞を取っています。それがどうなっているのかが見えてきました。なかなか継続が難しく、生徒も先生もどんどん替わっていく中で、もう一度取り上げてやり始めました。まだ不十分かなというところもありますが、あと一、二年また見てみたいという期待があります。</p> <p>為崎委員：「南希望が丘中学校」は、「北方小学校」と異なりずっと同じテーマで全校的にやっています。手書きにより生徒の思いが伝わりましたが、教員も生徒も替わる中で教員の中の継続体制はしっかりつくってもらいたいかなという気がしました。</p> <p>石原委員：「南希望が丘中学校」は、長年の活動である一方、池の劣化や記録の不明点など、管理上の課題も抱えているのかなと思いました。地域や他団体との連携については、専門家が 1 人です。「新治小学校」のように、多様な主体を巻き込む活動がまだ課題かなという気がしました。</p> <p>戸川委員長：それ以外に評価にあたって、気になった点などはないですか。</p> <p>委員一同：ありません。</p> <p>戸川委員長：それでは、部門ごとの各賞の候補決定を行います。まずは、「市民の部」の選考です。実践賞候補の確定ですが、18 点以上は、実践賞候補、18 点未満は感謝状候補です。決定は 市長が行うため、われわれは市長に推挙する候補を決定します。感謝状候補は「港南台ひばり住宅」さん、その他の応募者は実践賞候補で良いかどうかについて、異議のある方はおられますか。</p> <p>委員一同：異議なしです。</p> <p>戸川委員長：続いて大賞の選考に移ります。大賞は、「特に顕著な成績を収めた 1 者を候補とする」としています。1 位が「名瀬谷戸の会」、2 位が「富岡並木公園愛護会」です。基本的には 1 位が大賞候補となりますが、いかがでしょうか。</p> <p>川村委員：1 位と 2 位で 5 点ぐらい差があるので、この点数どおりで良いと思います。</p> <p>委員一同：異議なしです。</p> <p>戸川委員長：それでは、市民の部は「名瀬谷戸の会」が大賞候補とします。続いて、企業の部の選考です。「中外製薬」「原貿易」「古河電池」「宮本土木」「横浜油脂」が実践賞候補です。</p> <p>異議のある方はおられますか。</p> <p>委員一同：異議なしです。</p>
--	--

	<p>戸川委員：それでは、大賞の選考に移ります。1位が「中外製薬」、2位が「宮本土木」です。基本的には1位が大賞候補となりますが、いかがでしょうか。</p> <p>委員一同：異議なしです。</p> <p>北村委員：大企業と中小企業との差がある中で、こういうときにこそ宮本土木を大賞として残しても良いのではないかとも思いました。</p> <p>戸川委員長：それでは、企業の部では、「中外製薬」を大賞候補とします。続いて、「児童・生徒・学生の部」の選考です。4団体・個人すべてが実践賞候補となりますが、異議のある方はおられますか。</p> <p>委員一同：異議なしです。</p> <p>戸川委員：それでは、大賞の選考に移ります。1位が「新治小学校」、2位が「藤井さん」です。基本的には1位が大賞候補となりますが、いかがでしょうか。</p> <p>委員一同：異議なしです。</p> <p>戸川委員長：それでは、児童・生徒・学生の部では、「新治小学校」を大賞候補とします。</p> <p>次に特別賞です。まずは生物多様性特別賞についてです。事前採点では、名瀬谷戸の会1票、二ツ池公園愛護会1票、中外製薬2票で、新治小学校1票、該当なしが1票です。</p> <p>為崎委員：「新治小学校」に入れました。地道に取り組んでいる点を評価しました。ただ、大賞を受賞していないところを表彰するという考え方もあるように思います。もう一つ迷ったのは、「二ツ池公園愛護会」です。</p> <p>鈴木委員：市民の部で「名瀬谷戸の会」の点数を一番高くつけましたが、二番目に高くつけたのが「二ツ池公園愛護会」です。生き物調査やエコクラブ、環境教育を熱心に行っているところを評価しました。これからまた広がる可能性があるところを評価するようにしました。</p> <p>川村委員：「中外製薬」を推しました。レッドリストの生物の保全と、自然共生サイト認定と、TNFDは今や、自然への依存とか影響とかリスクとか機会を全部特定して評価して行動する時代になってきています。それを一生懸命実施しようとしており、自分たちの事業活動が自然にどのように依存し、影響しているのかをきちんと特定していくことが今後重要になると思います。あとは、上流に事務所を置き、水系全部について水資源の保全に努めて外部評価を受けています。生物多様性については、レッドリストに載るような生物がここにいるということだけで保護しているのではなく、広がりのある活動として展開しているところを評価しました。</p> <p>戸川委員長：社会潮流では、CO₂は10年とか20年で数値化されて見える化されてきています。一方、生物多様性の見える化はまだまだです。企業としては、もう少し慣れてきてからやろうとしているところが多い中で、率先してやることは相当ハードルが高いです。自分が正解を作っていかなければなりません。それに挑戦することは、相当、意気込みやリソースがないとできないことです。</p> <p>北村委員：私は「中外製薬」に入れています。今後、自然共生サイトは、大企業の</p>
--	--

	<p>取組として当たり前になっていくと思います。しかし、昨年の段階で取得しているというのは、自然共生サイトの取組が始まってすぐ、「うちで何かできることはないか」という検討が始まり、会社として当たり前に取得できているのだなと思います。登録した実績よりも、今、この段階で登録しているという感度の高さを非常に評価しました。登録するために生物多様性に関する勉強をすごくしてきたと思います。コチドリやバッタの話も書いてあります。内部でもきちんと勉強したところがしばしば見えています。意識の高さを感じます。来年度以降は、自然共生サイトに登録するところがどんどん出てきます。登録するからといって評価することは今後なくなってきます。この時点で登録することは、常に意識がないとできないことかと思いました。意識の高さを評価軸にしました。</p> <p>石原委員：私は「名瀬谷戸の会」に入れました。絶滅危惧種であるクマガイソウをはじめ、在来のメダカなども具体的な保全活動を継続的に行っています。生き物のつながりや生息できる環境づくりを積極的に行っている点を評価しました。近隣5校の小学校のカリキュラムと連携し、年間1,000人以上の子どもたちに里山環境教育やイベントを実施しています。生物多様性を特に次世代に広く伝えていることを評価しました。</p> <p>戸川委員長：それでは、ここまでの議論を踏まえて、生物多様性特別賞の候補に対して挙手をお願いします。名瀬谷戸の会1票、中外製薬4票で、該当なしが1票で、生物多様性特別賞候補は過半数を集めた「中外製薬」さんに決まりました。</p> <p>続いて、審査委員会特別賞です。事前採点では、新治小学校が1票、藤井さん3票です。この賞は大賞とのダブル受賞はなしなので、「新治小学校」は対象外となります。</p> <p>北村委員：私は「新治小学校」に入れました。生物多様性特別賞は「中外製薬」を推しましたが、一方、彼らの取組はすごくいいです。私は、「新治小学校」を大賞には推していなかったのですが、この取組を何か評価したほうがいいのではないかとということで特別賞に入れています。ムカシツチガエルは2022年に新種として登録されたばかりです。それに関することをしてきたところは非常に良いと思いました。現状のキャッチアップがきちんとできているところで評価しましたが、こちらは生物多様性特別賞の対象外になります。</p> <p>為崎委員：私は「藤井さん」を推しました。小4で関心を持ち、中学になっても熱意を持って続けているところを評価しました。ゲームのプログラミングをし、これで啓発しており、ハードルを下げた誰でも環境問題に触れやすいようにしているところも評価しました。事前質問への回答の中で、起業したいと言っていて、そこに期待したいと思います。</p> <p>川村委員：私は該当なしにしました。昨年度、私は個人を推しました。「藤井さん」ほど若くはなかったですが、レベル的にある程度の期待に沿えるようなものでなかったかなと思っています。しかし、昨年度は該当なしになりました。その基準をあまり変えたくないです。彼も良い活動をしています。年齢を考えに入れても、昨</p>
--	--

	<p>年の活動レベルとそんなに違いはなく、やはり該当なしにならざるを得ません。</p> <p>鈴木委員：私は「藤井さん」に入れました。先ほど「こういう発信があることが大事なのではないか」という話がありました。本当に色々な発信をしていて、色々なところに応募しています。特にこちらの賞の中でわざわざ審査員特別賞をつくったのは、こういう人をもう一度見つけてもらうためだったのではないかと思います。</p> <p>戸川委員長：それでは、ここまでの議論を踏まえて、大賞の「新治小学校」以外で挙手をお願いします。藤井さんが4票、該当なしが2票ということで、過半数を集めた「藤井さん」を今年の審査委員会特別賞に推薦します。それでは、これにて、横浜環境活動賞の審査委員会を終了いたします。では、最後に事務局からお願いします。</p> <p>事務局：長時間にわたるご議論をありがとうございました。本日、各賞の候補が決定しましたので、11月6日の表彰式に向けて手続きを進めていきます。逐次報告をお送りしますのご確認をお願いいたします。</p>
資 料	<p>資料1 第32回横浜環境活動賞受賞候補者の審査について</p> <p>資料2 第32回審査基準</p> <p>資料3 第32回応募書類・質問回答書類</p> <p>資料4 第32回採点集計結果表・採点表（個別）</p> <p>資料5 横浜環境活動賞審査委員会 委員名簿</p> <p>資料6 横浜環境活動賞実施要綱</p> <p>資料7 横浜環境活動賞審査委員会運営要綱</p>